

梢ニ花ヲ開ク、實ヲ結ブ、濶サ二分、長サ一寸許ノ薄片ナリ、松子ノ形ノ如ニシテ大ナリ、熟スレバ褐色ニシテ、長ク穂ヲナシテ下垂ス、地ニ下シテ生ジ易シ、一種葉小ニシテ鋸齒アリテ、ニガキノ葉ニ似タル者アリ、下品ナリ、一種小葉ノ者ハ鋸齒ナクシテ、紫藤葉ニ似テ短ク、節ニ對シテ生ズ、初夏枝梢ニ長穂ヲナシテ花ヲ開ク、杉シダノ楊花ノ如ニシテ瓣細ク白色、後實ヲ結ブ、形同シテ小ナリ、藥ニハ皮ヲ用ユ、舶來ナシ、京師ノ藥舖ニ貨ル者ハ、江州若州丹州ヨリ出ス、皮少許ヲ採テ水中ニ浸セバ、水面青色ニナル者真ナリ、唐山ノ松煙墨ハ、秦皮汁ヲ用ヒ色ヲ助クルコト、集解ニ説ケリ、本邦ニテ皮ヲ濃煎シ膠トナスヲ木膠ト云、佛經ヲ寫ス墨ニ用ユ、墨工コレヲ貯フ、國ニヨリテコノ木ニモ白蠟ヲ生ズルコト水蠟樹ト同ジ、是モトバシリト云、唐山ニハコレアルコトヲ聞カズ、

〔採藥錄五〕秦皮 ニガキ

本草所説但一種也、味苦故ニ苦樹ノ名アリ、先輩トテリコヲ以テ秦皮ニ當ルハ非也、味甚不苦、苦樹ハ味大ニ苦シ、舶來ノ者ニ異ルコトナシ、秋冬ノ間夫木ノ皮ヲ剝ギ取り、長サ五六寸許ニ切り、四五枚ヲ合テ藁ニテ紮定シ、日乾スベシ、

〔草木育種後編下品〕秦皮とねり 本艸

小葉大葉數種あり、山中より小木をとり植べし、二月又九月の比植かへてよし、和蘭にてエツセン、ホームといふ、皮はキナノ代用としてよし、又材は收瀝す、ボツク、ホートの代用とすべし、微毒の藥とすべし、一種日光山にてヲ、シタといふものは、皮を種々器物とす、日光より多く來る、斑ありて雅趣あり、

〔玉勝間十三〕とねりこの木

とねりこの木といふ木、木の色いと白く、葉は榎の葉にして、大木になる物なり、實はハかくの如き形にて、上の方は葉のやうにひらなり、件の木美濃國飯木村フンキに多く有て、他村には無しアダシムラと同

人道○田中麻呂いへり、飯木村は此人の故郷なり、多藝郡なり、